ケース 16　肱川鵜伝「大洲のうかい」

キーワード：まちづくり　観光ビジネス　独占的競争　価格決定

1　学習内容

地域におけるまちづくりの在り方と観光ビジネス

2　学習目標

地域経済の活性化と観光ビジネスの発展を目指す中で課題と意義について理解する。

3　学習指導要領において対応する科目、単元および学習内容

「ビジネス基礎」

⑷　経済と流通の基礎

ウ　経済活動と流通

経済活動における流通の意義や役割について、生産から消費に至る役割分担の変化及び小売業者の業種、業態の変化とかかわらせて理解させる。また、生活水準の向上や生産の高度化によって生産と消費の隔たりが大きくなり、流通の役割が大きくなっていることについても理解させる。

「マーケティング」

⑴　現代市場とマーケティング

ア　現代市場の特徴とマーケティングの発展

我が国における生産・流通・消費の動向、人口動態など市場環境の変化、消費者志向や社会志向などマーケティングの考え方や内容の変化及び様々な分野でマーケティングが重要となっている現状について理解させる。また、消費者保護や環境問題への対応、法令遵守など、現代市場における企業の社会的責任について理解させる。

「ビジネス経済」

⑶　価格決定と市場の役割

イ　市場の役割と課題

市場の役割について、価格決定や生産要素の配分の側面から理解させる。また、市場の課題と価格決定の現状について、独占や寡占など具体的な事例の考察を通して理解させる。さらに、公正な競争を実現するための政府の役割について理解させる。

「ビジネス経済応用」

⑸　ビジネスの創造と地域産業の復興

ウ　地域ビジネスの事情

身近な地域のビジネスの動向やビジネスに役立つ資源についての調査や研究を行わせる。また、その結果を基に、地域産業の復興のための具体的なビジネスアイディアの考案、その実現方策の立案及び地域や産業界への提案をする実習をさせるとともに、地域産業の復興への寄与の在り方について考察させる。

4　評価の観点

・うかいの歴史について理解している。【知識・理解】

・将来のまちづくりについて、観光ビジネスの果たす役割について理解している。【知識・理解】

・今後の観光協会と地元業者の課題について理解している。【思考・判断・表現】

事例　ケース 16　肱川鵜伝「大洲のうかい」

地域におけるまちづくりの在り方について様々な取組が行われている。少子高齢化や人口減少による商店街の衰退など問題となっている。地方における観光ビジネスの意義と課題について大洲の夏の風物詩である「うかい」を取り上げ以下のケース教材を読み考えてみよう。

１　概要

鵜飼いは「古事記」や「日本書紀」にも記述がある昔ながらの漁法で、鵜の食道で魚を一気に気絶させるため、傷がつかずしかも新鮮。古くから天皇、貴族、大名などへの献上品として保護されていました。江戸時代に大洲藩でも鵜を使った漁法が行われていたことが古文書に記されています。

明治以降は、漁法も近代化が進み一時は衰退しましたが、昭和32年に観光事業として復活。現在では水郷大洲市の夏の風物詩となっています。（期間：毎年６月１日～９月20日）

２　うかいの楽しみ方

岐阜県長良川・大分県三隅川と並び日本三大うかいに数えられる「大洲のうかい」。緩やかに蛇行する肱川を屋形船で約2.7kmの川下りを約２時間楽しみます。船の中では数々の川魚料理に舌鼓。夜の帳（とばり）が下がる頃、烏帽子（えぼし）に腰蓑（こしみの）姿の鵜匠が見事な手綱さばきで、巧みに鵜を操ります。大洲市のうかいは、鵜匠船と客船の屋形船が併走しながら川を下るという、国内唯一の「合わせ鵜飼い」といわれる手法で行われています。

３　全国の「うかい」開催地

⑴山梨県笛吹市（笛吹川）　⑵岐阜県岐阜市（長良川）　⑶岐阜県関市（長良川）
⑷岐阜県犬山市・各務ヶ原市（木曽川）　⑸京都府宇治市（宇治川）
⑹京都府京都市（犬堰川）　⑺和歌山県有田市（有田川）　⑻広島県三次市（馬洗川）
⑼山口県岩国市（錦川）　⑽福岡県朝倉市（筑後川）　⑾大分県日田市（三隅川）
⑿愛媛県大洲市（肱川）
※西日本を中心に発展？

４　「大洲のうかい」の特徴

⑴　**「昼うかい」**2010 年から乗合船、貸切船を運航しています。
⑵　**「もてなし」**乗合船には案内人が同行し、楽しいひとときを演出します。町並みをゆっくりと散策しながら乗船場へ向かい、屋形船に乗船します。涼風の中、夕闇が迫る河畔と水面に揺れる篝火（かがりび）が鵜匠の鵜綱捌きを引き立てます。
⑶　**「郷土料理」**料理人が丹精を込めた、大洲ならではの卸船料理食は肱川の香り満載です。辺り一面が群青色に染まる夕暮れ時、河鹿蛙（かじかがえる）の合唱に耳を傾けながらの舌鼓に趣も倍増します。
⑷　**「思い出」**篝火を焚いた二艘の屋形船で狭みながら流れる国内唯一の「合わせ鵜飼い」は、鵜が鮎を捕る姿を目の当たりにできるという迫力と臨場感があります。鵜匠と鵜匠の船頭と屋形船の船頭の呼吸がぴったりと合うとき、感動の瞬間を迎えます。
⑸　観光事業として発展させていくために「宿泊プラン」、「プレミアムメニュー」など多くのアイディアを実践している。伝統ある「大洲のうかい」が今後更に知名度を上げていくためにＰＲ活動を展開している。

（参考Ｗｅｂ）　「大洲市観光情報：大洲市ホームページ」
〈http://www.kurarinet.jp/ozu-ukai/about.html〉
〈http://www.oozukankou.jp/ukai-top.html〉

2016/6/24 資料作成

ワークシート

ケース 16　肱川鵜伝「大洲のうかい」

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　観光事業として「うかい」を始めた理由を話し合おう。　【知識・理解】

2　「うかい」の魅力について話し合おう。　【知識・理解】

3　「合わせ鵜飼い」をなぜ他の地域がやらないのか話し合おう。　【知識・理解】

4　「昼うかい」のメリット・デメリットを考えてみよう。　【思考・判断・表現】

5　「うかい」の需要を増やすアイディアを話し合おう。

キーワード　需要の価格弾力性・価格設定・幸福感・独自性 等　【思考・判断・表現】

6　「大洲のうかい」を観光ビジネスとして発展させていくためにどのようなアイディアが考えられるか話し合おう。　【思考・判断・表現】

ワークシート　解答例

ケース 16　肱川鵜伝「大洲のうかい」

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　観光事業として「うかい」を始めた理由を話し合おう。　【知識・理解】

春は冨士山の「桜につつじ」、秋は「いもたき」などがあるが、夏の観光ビジネスを考えていたときに肱川を利用して、当時高知県で行われていた「鵜飼い」をやろうと始めた。

2　「大洲のうかい」の魅力について話し合おう。　【知識・理解】

四国唯一である。風光明媚であり、昭和 40 年代は毎月約 1 万人の利用者がいた。

「合わせ鵜飼い」で間近で臨場感のある鵜飼いを楽しむことができる。など

3　「合わせ鵜飼い」をなぜ他の地域がやらないのか話し合おう。　【知識・理解】

肱川の特長（川幅や蛇行具合など）と客船・鵜飼い船の船頭の技術など難しさがあるから。（長良川では特別に年に数回行うことがある）

4　「昼うかい」のメリット・デメリットを考えてみよう。　【思考・判断・表現】

メリット：子供の利用者が増加した。鵜飼いの様子がよく見える。県外の観光客が増加した。夜鵜飼いより料金が安い。など

デメリット：夜に比べて魚を捕る量が少ない。

5　「うかい」の需要を増やすアイディアを話し合おう。

キーワード　需要の価格弾力性・価格設定・幸福感・独自性 等　【思考・判断・表現】

県外の観光客が宿泊し、昼間は大洲の町並みや食を楽しみ、夜は「うかい」を楽しみ宿泊もしてもらう観光プランを考えている。乗合船を持込有りなどにして安い料金で地元の人にも気軽に楽しんでもらうなど。

6　「大洲のうかい」を観光ビジネスとして発展させていくためにどのようなアイディアが考えられるか話し合おう。　【思考・判断・表現】

県外の観光客を増やす為に「伊予灘物語」などと提携してよりプレミアム感を出したツアーや若い鵜匠を育て会話も含めて若年層の利用者を増やす。

地元の子供達に出前授業などを行い、「大洲のうかい」ついて知ってもらい、大人になった時に利用してもらうなど長い目で考え、地元の利用者を増やし、更にそこから外へ向けてのＰＲ活動に協力してもらうなど。